

## 「百人一首すらすら」

校長 安藤 盛光

暖冬、雪不足と言っていたのが嘘のように、日本列島を次々と寒波が襲い、各地で最低気温が更新されたり、大雪となったりしました。しかし、寒い中でも学校の紅梅や白梅がほころびはじめています。春は確実にそこまで来ているようです。

さて、最近は多くの学校で百人一首大会が開かれるようになりました。本校でも百人一首大会を毎年開催（1，2年生）しています。国語の授業中に一首でも多く、百人一首を覚えるよう指導しています。

新聞に、埼玉県内に住む女性読者からのこんな投稿が載っていました。

## 認知症の夫 百人一首すらすら

先日、書店で何気なく手に取った「百人一首」の本を買ってみた。記憶力に自信はないが、新しいことに挑戦しようと思ったのだ。自宅に帰って、\*1「君がため 春の野に出でて 若菜つむ」と上の句を読んだら、隣にいた夫の口から、下の句がすらすらと出てきた。面白いので次々と読むと、夫は負けじと下の句をそらで読み返してくる。数首を残してほぼ完璧だった。72歳になる夫は認知症。大好きだった野球にも興味がなくなり、時間の感覚もわからなくなった。そんな状態だからこそ、百人一首が夫の生きていく証<sup>あか</sup>のような気がしてくる。今も病状は進んでいるが、百人一首をそらんじている時が、一番幸せなのかもしれない。私も、一首ずつ覚えていくのが楽しくなってきた。まだ30首程度だが、いつか夫に追いつきたい。百人一首は私たち夫婦<sup>いづ</sup>を癒してくれる。

## \*1「君がため 春の野に出でて 若菜つむ わが衣手に 雪は降りつつ」（孝行天皇）

<現代意識>あなたのために春の野に出て若菜を摘んでいましたが、春だというのにちらちらと雪が降ってきて、私の着物の袖にも雪が降りかかっています。

私が中学生だった頃はまだ百人一首大会はありませんでした。今から思うと、もっと百人一首に触れる機会があれば良かったのにと残念です。私からすると今の中学生がうらやましく思います。中学生がここまで考えて学習しているとは思えませんが、若いうちに覚えたことはなかなか忘れないものです。「百人一首」をそらんじることにも意義があると思います。

百人一首の中で、私がよく覚えているのが、「千早振る（ちはやぶる）神代（かみよ）も聞かず竜田川（たつたがわ）韓紅（からくれない）に水くくるとは」（古今集：在原業平）の歌です。なぜこの歌が印象に残っているのかというと、古典落語の中に、この歌を題材にしたものがあるからです。落語では、この歌の意味を聞かれた物知りを自負しているご隠居が、いい加減な解釈を加える話となっています。また、この百人一首に由来した映画「ちはやふる」（主演：広瀬すず）が近々公開されるそうです。

百人一首とは話がずれてしまいましたが、興味がある方は落語を聞いてみたり、映画をご覧になったりしてみてください。本校の百人一首大会は3月に開催されますが、今から楽しみにしています。